

# 「県立図書館に関するアンケート」単純集計結果 分析

## 【分析の視点】

神奈川県立図書館にはどのような利用者がいるのか？

### 1 利用頻度について

- 利用頻度は「月に数回」251人（45.1%）が最も多く、次いで「年に数回」120人（21.5%）が多い。この傾向は前年と同様である。（第1表・第1図・第2図）
- 男女別の利用頻度では、月に数回以上の利用が男性で減少し（2019年 67.6%→2020年 62.5%）、女性で増加した（2019年 40.0%→2020年 49.5%）。（第1表・第2図）

### 2 来館目的について

- 「個人的な利用（趣味・自習）」（60.7%）が最も多く、前年と変わらない傾向を示しているが、約4%減少している。（第2表・第3図）
- 「仕事上の利用」（11.7%）は前年より1.3%減少している。（第2表・第3図）
- 利用しているコンテンツでは「図書」が最も多く36.4%、次いで「音楽・映像資料」11.5%となっている。「音楽・映像資料」は前年より約2.2%増加し、「新聞・雑誌」は前年より約4.8%減少した。なお、調査期間中は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、新聞（当日）閲覧コーナーが新館1階通路に移動していた。（第2表・第3図）
- 利用しているサービスでは「座席の利用」（8.6%）が前年より約3.6%減少している。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、座席数を減らしたこと、館内滞在時間を2時間以内とするよう呼びかけていたことの影響が考えられる。（第2表・第3図）
- 男女の選択率の差が倍以上あった項目は、「新聞・雑誌の利用」（男性 12.7%、女性 4.5%）である。この傾向は前年と同様である。（第2表・第4図）

### 3 県立図書館の選択理由について

- 「静かな環境だから」が最も多く選択された。回答者の48.3%が選択し、男女ともに最も多く選択された項目である。これは前年と同様の傾向である。（第3表・第5図・第6図）
- 「専門的な資料があるから」は回答者の46.3%が選択しており、前年より3.4%上昇している。県立図書館の資料収集方針が反映されている結果と考えられる。（第3表・第5図）

### 4 利用場所について

- 利用場所の上位は「閲覧室1階（貸出カウンター側）」47.6%、「閲覧室2階」24.1%、「新館3階かながわ資料/新聞・雑誌室」20.3%となっており、前年の傾向と変わらない。（第4表・第7図）
- 「新館3階かながわ資料/新聞・雑誌室」の利用率が前年の25.4%から5.1%減少した。これは、新聞（当日）閲覧コーナーが新館1階通路に移動していたことの影響が考えられる。（第4表・第7図）
- 回答者の選択率が3%未満の利用場所は「セミナールーム・多目的ルーム」0.7%、「生涯学習情報コーナー」2.5%、「展示コーナー」2.9%であった。多目的ルームは会議やイベントの予定がない時に飲食スペースとして開放していたが、調査期間中は新型コロナウイルス感染

症拡大防止のために開放を中止していた。調査期間中に開催された講座はなく、実施されていた企画展示は「神奈川の海をすくう」である。(第4表・第7図)

- 男女の選択率の差が倍以上あった項目は、「閲覧室1階(相談カウンター前)」（男性14.0%、女性5.4%）、「生涯学習情報コーナー」（男性1.8%、女性5.4%）、「女性関連資料室」（男性2.1%、女性9.0%）である。「女性関連資料室」の利用は女性の方が多いという傾向は、前年と同様である。(第4表・第8図)

## 5 利用の成果（アウトカム）について

- 30%以上の回答者に選択された項目は、「研究や調べものが進んだ」34.8%、「知識教養が深まった」34.3%、「余暇を有意義に過ごせた」30.5%である。(第5表・第9図)
- 前年に引き続き、最も多く選択された項目が「研究や調べものが進んだ」(34.8%)であることは、基本理念である「新たな『知』を育む『価値創造』の場」としての役割が果たしていると考えられる。(第5表・第9図)
- 男性に最も多く選択された項目は「知識・教養が深まった」(35.7%)であり、女性に最も多く選択された項目は2項目あり、「研究や調べものが進んだ」「余暇を有意義に過ごせた」(36.0%)であった。(第5表・第10図)

## 6 満足度について

「全般的にみた県立図書館の満足度」について（第6表）

- 「満足」45.9%であり、前年の44.0%から約1.9%上昇した。「どちらかといえば満足」47.3%を合計すると90%以上となり、概ね現状に満足している方が利用しているという傾向である。(第6表・第11図)
- 男女別の回答において各項目に2%以上の差は現れなかった。(第7表・第12図)

「資料やサービスについての満足度」について（第8表）

- 「満足」「どちらかといえば満足」の合計が70%を超えた項目  
「職員の対応」90.8%、「施設・設備」82.9%、「開館日・開館時間」80.6%、「図書」75.1%の4項目。うち、「満足」が最も多く選択された項目は、前年同様、「職員の対応」51.1%である。「どちらかといえば満足」39.7%との合計からも、最も満足度が高い項目であることがわかる。中央値もこの項目のみ4を示している。(第8表・第13図)
- 「満足」「どちらかといえば満足」の合計が50%未満の項目  
「音楽・映像資料」49.8%、「生涯学習情報コーナーのパンフレット・チラシ」44.2%、「調査・相談」42.8%、「生涯学習相談」30.4%の4項目。うち、「わからない」が50%を超えた項目は「生涯学習相談」66.9%、「調査・相談」54.5%、「生涯学習情報コーナーのパンフレット・チラシ」53.1%の3項目であった。認知度の低さ及び利用経験の無さにより評価できない利用者が多いという結果である。これは昨年と同様の傾向である。(第8表・第14図)
- 「不満」が最も多く選択された項目は「開館日・開館時間」4.4%であるが、「どちらかといえば不満」との合計値は「図書」15.6%が最も高く、昨年同様の結果となった。(第8表・第13図)
- 「満足」の選択率は9項目中7項目で女性が高かった。「不満」の選択率は9項目中8項目で男性が高かった。(第9表・第10表・第14図・第15図)

- 男性の回答の中央値は3が8項目、4が1項目であった。「満足」が40%を超えた項目は、「職員の対応」49.3%のみであった。(第9表・第14図、第16図～第24図)
- 女性の回答の中央値は3が8項目、4が1項目であった。「満足」が40%を超えた項目は、「職員の対応」56.7%、「開館日・開館時間」40.4%、の2項目であった。(第10表・第15図～第24図)

## 7 回答者について

### 1) 性別

- 「男性」387人(69.5%)、「女性」111人(19.9%)で、前年と同様に男性の割合が高い状態が続いている。「無回答・無効回答」58人(10.4%)は、前年よりは少なかったが、アンケート期間中「読書通帳に関するアンケート」を同時に実施したため、回答者は複数枚のアンケート用紙に回答をすることとなり、それが利用者の属性を記入する裏面への回答に至らなかった要因の一つであると考えられる。(第11表・第25図)
- 前年との比較において、男女の比率に3%以上の変化はない。

### 2) 年代

- 「60代」が103人(18.5%)で最も多く、「19歳以下」が34人(6.1%)で最も少ない。世代別傾向は前年と比較し、「70代以上」が減少し、その他の年代が増加した。(第12表・第26図)
- 男女別に見ると、全年代で男性の比率が高い。30代までは60%程度だが、40代以上では70%以上となっている。(第11表・第27図)

### 3) 職業

- 「フルタイム勤務(会社員・公務員)」168人(30.2%)が最も多く、次いで「無職」113人(20.3%)が多い。(第13表・第28図)
- 男性の比率が女性の倍以上であった項目は、「自営業」(男性11.1%、女性3.6%)、「無職」(男性26.6%、女性9.0%)、女性の比率が男性の倍以上であった項目は、「パート・アルバイト」(男性6.7%、女性16.2%)、「専業主婦・主夫」(男性0.3%、女性18.0%)、「学生」(男性11.9%、女性27.0%)である。(第13表・第29図)
- 前年と比較し、「フルタイム勤務者(会社員・公務員)」が6.8%、「学生」が4%増加し、「無職」が6.5%減少した。

### 4) 住所

- 県内在住者が80%以上を占めている。県内の内訳では、県立図書館所在地区である横浜市在住者が80%以上を占めており、この傾向は前年と同様である。(第14表・第15表・第30図・第31図)
- 県内在住者の内訳を見ると、前年との比較において、減少した地域は、横浜市(-2.5%)、県西地区(-0.4%)であり、増加した地域は、川崎市(+0.6%)、横須賀・三浦地区(+0.1%)、県中央地区(+1.1%)、湘南地区(+0.7%)である。(第15表・第31図)
- 県内在住者の男女別内訳を見ると、男女の比率の差が倍以上となった地域はないが、女性の方が、横浜市のうち当館近隣地区(西区・中区・保土ヶ谷区)と横須賀・三浦地区では比率が高い傾向がみられた。(第15表・第32図)